

保護命令とは何ですか？

裁判所が下す命令であり、家庭内暴力、性暴力、ストーカー行為から被害者を守る手段となり得るものです。保護命令は、特定の起訴犯罪の民事訴訟あるいは刑事訴訟の一部として下される場合があります。

刑事保護命令は、刑事事件の間にのみ効力があり、警告なく突然終了される場合があります。また、民事保護命令 (CPO) であれば、刑事訴訟が存在するかどうかにかかわらず要求することができます。民事保護命令は有効期間を最大5年間継続可能であり、また更新することができます。刑事訴訟に係争中の場合、民事訴訟を起こす前に弁護士に相談してください。民事訴訟を起こすことによって、保護が得られなくなったり、刑事訴訟に影響が及ぶ場合があります。

あなたが保護される必要な人物との関係や、現在直面している、またはこれまでに発生した暴力の種類に応じて、いくつかの種類の民事保護命令があります。保護命令の種類、受ける資格のある種類、および個々の保護命令が提供する救済の内容については、www.odvn.org/survivor/law.html をご覧ください。

保護命令は自分のケースに適切ですか？

しばしば、虐待者と別れたり、関係を終わることを考え始め、行動に移そうとするときに危険が増すことがあります。保護命令は、ある程度の保護を提供するとはいえ、安全を保証するものではありません。また、保護命令を申し立てることによって、別の問題が生じる場合があります。これは特に、お子様がいる場合、別の法的問題を抱えている場合、または別の何らかの理由による難しい事件を抱えている場合に当てはまります。保護命令の申し立てに伴うリスクに関して詳しくは、<http://www.odvn.org/survivor/law.html> をご覧になり、「Do I Need an Attorney First? (先に弁護士が必要か?)」のチェックリストを確認してください。

家庭内暴力専門の支援者のサポートを得て、ご自身に適した安全対策を立てることが重要です。最寄りのプログラムについては、電話 (800-934-9840) でご確認ください。そのほかにも、家庭内暴力専門の支援者と相談して、保護命令が正しい判断かどうかを調べることもできます。安全対策を立てず、また法的助言を受けずに保護命令を申し立てても、より安全にならないばかりか、危険が増すおそれがあります。

法的サポートを受けるには

特にお子様がいる場合や虐待者と資産や負債を共有している場合などほとんどのケースで、申し立てる前に弁護士を雇用することが非常に重要です。弁護士と法的情報を見つけるために、以下のような方法があります。

- ・ **法律相談事務所**：地元の法律相談事務所を見つけるには、**866-lawohio (866-529-6446)** までお電話するか、またはウェブサイト (www.ohiolegalhelp.org) にアクセスします。法律相談事務所では、無料で弁護士を提供できます。
- ・ **家庭内暴力プログラム (ドメスティックバイオレンスプログラム)**：収入に無関係に無料の法的サービスを提供できる場合のある、保護命令を必要とする被害者が利用できるプログラムがあります。地元のあなたの支援者が、そのようなプログラムおよび犯罪被害者補償プログラム (Crime Victim Compensation Program) とを結び付けるためのサポートができます。
- ・ **プロボノ/ボランティア弁護士**：地域によっては、ボランティア弁護士が活躍しています。あなたの支援者が信頼できる弁護士を紹介できないときには、ボランティア弁護士のサポートを受けられるかどうか地元の弁護士協会 (Bar Association) に問い合わせましょう。お住まいの近くにロースクールがあれば、法律相談所経由で無料の法的支援を受けられるかどうか確認してみてください。

あなたの法律相談を受けたり、あなたの訴訟を法廷に提示できるのは、弁護士だけです。支援者は、あなたが取る法的措置の重要な部分を占める、あなたに合った安全対策を立てるのを支援することができます。



The Ohio Domestic Violence Network (ODVN is a statewide coalition of domestic violence programs, supportive agencies, and concerned individuals working together to stop domestic violence through education, information and training for those who are affected by domestic violence, and by promoting social and systems change.

This project is supported by Grant No. G-19010HSDVC awarded by the Department of Health & Human Services, Administration for Children and Families (ACF), Administration on Children, Youth, and Families (ACYF), Family and Youth Services Bureau (FYSB). The opinions, findings, conclusions, and recommendations expressed in this publication, program, exhibition are those of the author and do not necessarily reflect the views of the Department of Health & Human Services.

JAPANESE CPO BROCHURE

保護命令とは何ですか？



保護命令を求めるには、どうすれば良いのですか？

手続きは、郡ごとに異なります。お住まいの郡で手続きがどのように行われるかについては、最寄り家庭内暴力プログラムに問い合わせてください。そのプログラムは、保護命令を申し立てる際に嘆願書を提出したり、弁護士を見つけるのをサポートしてくれる場合があります。保護命令を申し立てるのに弁護士は不要ですが、手続きは複雑であるため、弁護士のサポートを受けるのが最善です。特に虐待者との間にお子様がいる場合や別の法的問題を抱えている場合には、申し立ての前に弁護士に相談することが重要です。あなたの地元の法的援助、犯罪被害者補償プログラム（Crime Victim Compensation Program）、または他のプロボノ（無償）プログラムを通じて、金銭的負担なく弁護士に業務を依頼できる場合があります。保護命令を申し立てるための書類は、あなたが申し立てる郡の裁判所の職員から取得できます。また、書類はオハイオ州最高裁判所のウェブサイト（www.supremecourt.ohio.gov/JCS/domesticViolence/default.asp）からダウンロードすることもできます。手続きに何らかのウェブサイトを使用する場合、たとえば図書館や信頼できる友人のコンピューターなど、虐待者がアクセスできないコンピューターを使用するよう心がけてください。

裁判所の手続きの流れを教えてください

ステップ1：申立：被害者または担当弁護士が、保護命令の嘆願書を提出します。 迅速な保護が必要とされる場合、嘆願書には非対審手続を実行するよう要求する内容を含める必要があります。

ステップ2：非対審手続（当事者の一方だけの出席で行われる審理のこと）を行います。民事保護命令であれば、申立が行われた日に効力を生じます。ストーカー行為および/または性的羞恥心を害する行為からの保護命令（SSOPO: Stalking and/or Sexually Oriented Offense Protection Order）または青少年保護命令（Juvenile Protection Order）については、申し立ての日と同日または次の審理日に効力を生じます。これは、あなたが迅速な保護命令を必要としている理由を裁判官に訴える機会であり、裁判官は、その日に命令を下すかどうかを判断します。

ステップ3：書類の提供：被申立人（あなたが保護のために申し立ての対象にした人物）には、あなたが提出物の写し、保護命令書（非対審手続で発行された場合）、および本格的審理の通知が提供されます。これは、より危険な時であり、あなたの安全対策は、この期間中の安全確保のための必要性に対応できるものである必要があります。

ステップ4：本格的審理 - 裁判所は、通常、7~10日以内に本格的審理を開きます。あなたは、これに出廷しなければなりません。ただし、次のような事態が生じる可能性があります。すなわち、審理が別の日付に継続される、あなたと被申立人が同意審決と呼ばれる保護命令の

合意に達する、または審理が開かれるなどです。

- あなたは、定められた公判日にはいつでも、証人、証拠、およびあなたが嘆願書に添えた内容で審理に臨む準備ができておく必要があります。また、裁判所はあなたのお子様の親権と面会、薬物の使用、生活状況などに関する他の情報を提示を認める場合があります。

ステップ5：裁判所命令 - 裁判所は、審理の時点で命令を出す、またはあなたが命令を書状で受け取るまで待つ場合もあります。この命令には、非常に大きな効力があり、たとえば、被申立人が居られる場所、子供の親権を誰が得るのか、誰が住居に居住できるのか、および被申立人の銃器へのアクセスが許されるかどうかにまで及びます。また、裁判所命令は保護命令を否定し、あなたが将来的に安全を確保することを困難にする可能性もあります。

警察を呼んで執行できるようにするに備えて、保護命令書は肌身離さず所持してください。命令書の写しをお子様の学校や職場など必要となる人物に提供してください。

法廷審理前の準備

- 裁判所への道順と駐車場所（必要に応じて）を把握しておきます。どの法廷審問に対しても、早めの準備を心がけましょう。
- 法廷では、清潔で端正な身振りが重要です。
- 裁判の前、最中、および後で被申立人と接触することがないように、どこで待たば良いかについて、あなたの支援者および弁護士と事前に計画を立てます。被申立人があなたとの不本意な接触を試みた場合やあなたが裁判所を去るときの護衛が必要な場合は、裁判所の職員に助けを求めましょう。
- お子様による証言が必要でないかぎり、お子様を法廷に連れていくのは得策ではありません。審理時間が短い、または終日続く場合に備えて、託児の計画を立てましょう。託児先が見つからない場合、あなたの支援者に伝えてください。
- 各公判日の事前に、申し立てた内容および証拠を見直し、精通してください。あなたの証人が出廷可能であることを確かめ、また必要に応じて召喚状を発行してください。
- あなたには、どの公判日においても、法廷にあなたの支援者の同伴を求める法的権利があります。
- あなたが英語を話さない場合、あるいは耳が聞こえない場合や難聴である場合には、あなたには裁判所に通訳者の提供を求める権利があります。申し立てを行うとき、および公判日が定められたときには、あなたの支援者および裁判所に通訳が必要である旨を知らせてください。どのような場合であれ、これらの審問に対して弁護士を利用することが最善です。

証言に向けたアドバイス

- 事実に固執し、尋ねられる質問だけに答えるようにしましょう。詳しく話す必要があるときには、自分が発言する順番を待つ必要がある場合があります。
- 裁判官と法廷記者に聞こえるように、大きな声で明確に話します。
- 意味を知らない法律用語や医療用語などを使用するのは控えます。
- 質問に答えるときには、ゆっくりと時間をかけます。質問の意味が分からないときや、答えることができない場合、そのように伝えます。尋ねられている質問を完全に理解できるまで、答えてはなりません。
- 法廷では真摯な態度をとり、裁判官を必ず「Your Honor」と呼びましょう。
- 被申立人または被申立人の弁護士は、あなたを動揺させるような事を述べたり、さらには怒らせることを意図する場合があります。常に落ち着いているように努めてください。休憩が必要などときには、裁判官に頼みましょう。

保護命令が違反されたときは、どうすれば良いのですか？

あなたの保護命令は、米国内のどこでも強制力があります。あなたの保護命令が違反された場合、安全対策を改善するために支援者に相談してください。その他にも、以下の手段を講じることができます。

- 証拠を集めて保存しておきます。これには、虐待者、虐待者の車、または資産に対する損害の写真、テキストメッセージや電話メッセージ、ソーシャルメディアの投稿、または電子メールの内容を保存することが含まれます。
- 警察に通報し、あなたの保護命令を（非申立人の逮捕によって）執行するように求めてください。保護命令違反は、刑事犯罪になり得ます。警察を呼ぶ場合には、違反があったとき、またはその後速やかに通報すべきです。逮捕されない場合には、報告を受理するように依頼しましょう。
- あなたの命令が違反された場合の刑事告訴について、検察官に相談します。
- あなたの保護命令を出した元の裁判所で、非申立人を法廷辱罪で認定するよう申し立てます。

